

【消化器癌に対する外科治療戦略における大分県地域間格差の検討】

1. 現状と課題

総合外科・地域連携学講座

【地域における外科医不足】

近年、地域医療における診療科の偏在や外科医不足・外科医の高齢化が問題となっている。

【地域間格差】

都市部と地域との外科医療の戦略や治療の質の格差の有無が問われている。

2. 研究計画

【目的】大分県地域における、手術症例数の多い消化器癌(common malignancies, 胃癌・大腸癌など)に対する外科治療戦略の地域間格差の有無について検討する。

【方法】大分県下17施設における消化器癌症例の患者背景・治療法・術後短期成績など1年間の経験症例を登録し、そのデータを収集・解析し、common malignanciesに対する地域間や医療圏間における相違を明らかにする

3. 研究の進行状況

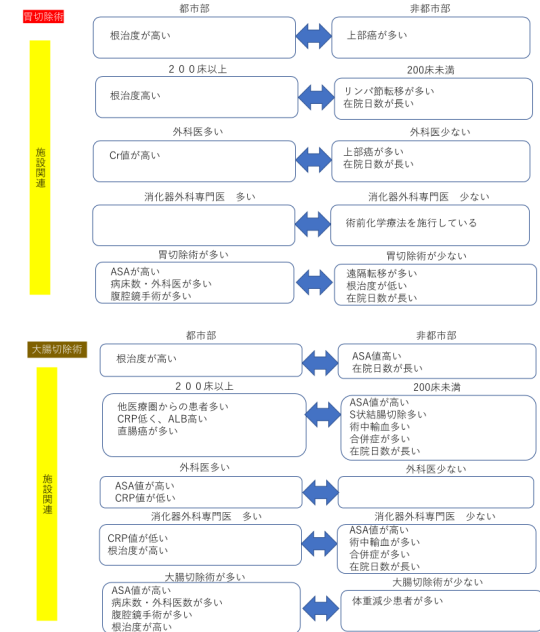
大分県多施設共同研究（大分大学医学部倫理委員会承認番号2338）
「**高齢者(75歳以上)の一般的な消化器外科疾患に対する
地域外科医療の実態調査**」

【対象症例】令和3年10月1日～令和4年3月31日までの75歳以上の手術症例

- ① 胃癌に対する胃切除術(開腹下/腹腔鏡下)
- ② 結腸癌に対する結腸切除術(開腹下/腹腔鏡下)

【結果】大分県下17施設より胃癌65症例、大腸癌167症例の登録

- ・胃癌:高齢者の術後合併症の独立危険因子はASA3以上のみであり、施設間や外科医師数による合併症発生の格差は認めなかった。
- ・大腸癌:術後合併症の独立危険因子は胃癌と同様にASA3以上のみ。



大分県地域の高齢者胃癌・大腸癌に対する外科治療における合併症の発生に関しては、地域間や医療圏格差は認められないことが明らかとなった。